

参加料に関するご質問について

日頃より、東京マラソンの開催にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

2月17日にお知らせしましたとおり、東京都内において、新型コロナウイルス（COVID-19）の複数の感染者が確認される中、多くの一般ランナーが参加する本大会を実施することは困難であるとの結論に達し、3月1日（日）開催の東京マラソン2020については、マラソンエリート及び車いすエリートのみ開催することをご案内させていただきました。

この間、都民の皆様をはじめ、様々な方面の方々から東京マラソンの参加料に関するお問い合わせを多数いただいている状況です。つきましては、参加料について以下のとおりお知らせいたします。

一日にわたり東京の中心部において長時間にわたり主要道路を止め、ランニングイベントを実施するためには、競技運営だけでなく、交通規制計画や警備安全対策、医療救護体制の構築、コース沿道対策、参加者とのコミュニケーション（エントリー、連絡等）などの事前準備に膨大な時間と労力を要します。

東京マラソンの開催にあたっては、その運営に約19.7億円の経費（EXPOや関連イベントにかかる経費を含む32.5億円）（2018大会実績）を要します。これは、参加ランナー一人当たり換算すると約54,800円（2018大会定員）の費用となり、この費用のうち多くの部分は準備段階で必要となるものです。

東京マラソンでは、この費用の一部を参加料（国内16,200円）で賄っています。

経費の内訳は以下のとおりとなりますが、これらの経費については、開催に向けた1年間の準備にかかるものも含め、多くの部分が、大会開催2週間前の段階では、履行や制作済である、もしくは発注や手配済みであるため、取りやめができないのが実情です。

現在、弊財団では、一般の中止により不要となる施工物や施設利用のキャンセル、警備員を含めた大会スタッフの削減手配を進め、出来るだけ、債務を削減するよう、関係者と交渉を進めておりますが、契約上のキャンセルポリシー等に従うと、現段階ではほとんどの債務が確定している状況です。

これらの事情は多くのマラソン大会で共通のことであり、各大会の参加規約では、大会中止の場合にも参加料を返金しない旨を明記し、ランナーの皆さんに同意をいただいております。東京マラソンにおいても、原則として参加料は返金しないこととしております。

引き続き、東京マラソンの開催についてのご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

【一人当たりの費用換算】※2018大会実績

○競技・大会運営費 16,970円

ナンバーカード、計時チップ作成、医薬品購入、給食物品購入、道路占用・使用許可申請手続、更衣施設借用、手荷物運搬、輸送関連車両確保など

○設営関係費 13,820円

運営・更衣テント、交通規制資機材など

○警備・安全対策費 13,360円

沿道警備員確保、監視カメラ設置、警備資機材レンタルなど

○広報費 6,860円

交通規制広報・チラシ、大会開催告知、大会プログラムなど

○エントリー関連経費 3,790円

エントリーシステム運用、参加案内など

なお、2020大会に参加予定だったランナーの皆様へ、ナンバーカード、計時チップ、ランナーロブ、アルミシート、公式プログラムを4月以降順次お送りいたします。